

会議録（要旨）

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ

（委員会の成立）事務局から委員の過半数の出席により、委員会が成立していることが報告された。

（傍聴者の報告）事務局から傍聴者が0名であることが報告された。

- 3 議事 「市民活動推進委員会提言書」の内容を具体化する方策について
資料他自治体の市民活動支援拠点・ボランティアセンターの運営状況について調査結果

<事務局から説明>

- ・第1回（前回）の委員会で提示した「共催・後援に係る市民用周知チラシ（案）」について、現在、令和元年度の共催・後援の承認実績を調査中である。第3回の委員会では調査結果を反映させた修正案を提示する予定である。
- ・資料について、他自治体に対し、運営主体や運営方法、課題といった運営状況について調査を行った結果となっている。調査期間は9月3日から9月14日、調査時点は9月1日、調査対象は近隣4市1町を含む12の自治体とし、回答があった10の自治体の状況についてまとめている。他自治体の状況や課題を参考に、本市の「協働を推進・支援する組織・拠点の整備」について、ご協議いただきたい。

<委員からの意見>

- ・八潮市の市民活動支援コーナーの令和元年度決算額について、4,171,050円とあるがこの金額の内訳は何か。
→（事務局より）この金額は市民活動支援事業の歳出決算額であり、内訳としては市民活動支援コーナーの運営に係る人件費や消耗品費、通信費などが含まれる。
- ・市民活動推進委員会は次の2点のことを並行して協議しなければならない。
1点目は、“市民活動”とは行政が管理しないから市民活動なのであり、行政は関与できないと念頭に置くこと。ただし、相談・助言や補助金の交付など“支援”というかたちで行政が関わることになる。2点目がこの支援の体制であり、情報提供や支援組織の作成、場所の確保や人的協力等を指す。1点目は意識のあり方なので具体的な方策を検討する必要はないが、2点目の好事例として立川市を例に挙げる。
《立川市事例》自主的にやりたいことをやってもらうことが市民活動の根幹であるが、これをそのまま推進した結果、複数の団体がバラバラに活動し行政が実態を把握できなくなってしまう。この状況を改善するべく、立川市では、市民交流大学に必修科目を設け、規模や目的に

関わらずどの団体も受講するようにした。これにより団体間の交流が生まれ、協働の推進につながった。同様の事例は酒々井町にもある。

→ (委員長より) 交流を資源とすることで街が活性化する。それぞれの団体が持つエネルギーをまちに還元してもらいたい。八潮は生涯学習都市でありやしお生涯学習館 (以下、学習館) はその拠点である。こういった力をどんどん活かしていきたい。

- ・ 提言書に記載した課題解消のため、中間支援組織の整備に向けて具体的な方策を検討している段階である。専門的知識を有した職員の配置や実績又は事業遂行能力のある運営主体を選ぶ必要があることから、本市の社会福祉協議会 (以下、社協) へ委託することも選択肢の一つであった。運営主体について話を進めると同時に、予算がいくらつけられるかも検討するべきではないか。
- ・ 各自治体の令和元年度決算額についてばらつきがあるが、対人口割合で比較するとどうなるのか。
 - (事務局) 本市の現状として、学習館 2 階の市民活動支援コーナーと社協によるボランティアセンター (以下、ボラセン) があり、この二者を統合したほうが効率的なのではないかという意見があり、今回の調査に至ったところである。調査の結果、統合したほうが効果的であったという事例もあったが、本市と同じく別々に運営している自治体も多いことが分かった。本市においても二者を統合することは難しい。学習館としては、現在の市民活動支援コーナーを機能拡充することでニーズに答えていきたいところである。本市としても、運営主体の選別や予算というよりは、人材の確保や開館時間の延長などについて検討を進めていきたいところである。
- ・ 狛江市の運営方法がベストなのではないか。社協も関心は持っているはずなので、ぜひ委託について聞いていただきたい。
- ・ 学習館のすぐそばに社協がある、本市の地の利を活かすべきではないか。二者が同じような事業内容だと利用者も分散されてしまう。様々な団体が活動している中で、つながりを持たせるためにベストな方法を考えていきたい。
 - (事務局より) 社協との事業連携について、担当者レベルではあるが打ち合わせを行った。市民活動支援コーナーについては学習館の市民活動支援事業であり、コーディネーターが配置されているが正規職員ではないことから、事業開催の可否や職務内容を判断する権限がない。一方で、社協のボラセン事業についても、職員が兼任であることから事業に注力できないという課題があるようだった。それぞれの持つノウハウを持ち寄ることでもうまく連携をとれないか聞いてみたところ、社協からも事業の連携は重要だと考えていること、今後、有事の際のボランティアなど市民の活力を引き出す機会があった場合にこういった事業連携を行っていたほうが効率的だろうと考えているということだった。

- ・ボラセンは福祉、楽習館は生涯学習や娯楽的要素が強いように感じる。福祉というキーワードも広義で解釈すれば両者が重なってくるのではないか。
- ・災害等の有事の際の臨時ボランティア受付はどこが担当なのか。社協か。
 - （事務局より）ボランティアの受付は市民協働推進課と社協が連携して募集や割り当てを行うよう、防災計画で取り決めしている。
- ・予算の拡充が見えてこない、委託するにせよ拡充するにせよ具体的な内容が見えてこないのではないか。専任を配置するためにはある程度の予算が必要ではないか。
 - （事務局より）専任の配置について、他自治体も意見として挙げているが、コーディネーター業務を行える人材の確保が難しい。現在（令和2年度）も、専任が複数名確保できなかったため、楽習館の正規職員4名がローテーションを組み市民活動支援コーナーの窓口を担当している。正規職員が相談業務に当たることで、市役所や社協とのパイプ役になり、迅速な支援にも繋がる。さらに、正規職員全員が相談業務の経験を積むことによって、人事異動があってもフォローできる体制づくりに繋がっている。こうした取り組みを続けながら社協とより密な連携をとることで市民活動支援コーナーの充実に繋げられればと考えている。
- ・市民活動支援コーナーの課題として、コーディネーターが臨時職員であったことから権限がないこととコーナー開所時間が9時から16時までと短いことがあった。正規職員が相談業務に当たることで、前者の課題はクリアできると思われる。時間の問題も、ローテーションの組み方などで現状に即した改善をしてほしい。
- ・前々回の委員会で、市民活動支援コーナーの運営に当たって大切にしたいキーワードがあった。「つなぐ」「自立支援」「一緒に考えて一緒にやる」の3つである。同じ立場で同じように考えることが自立の後押しになる。これは社協と共有しなければいけないキーワードである。市民活動支援コーナーに全てを求めるというよりも、ここに来れば何らかのきっかけがつかめるような場を目指したい。
- ・相談する側からすると、相談内容が細かく区別されていたほうがとっつきやすい。「相談にのります」ではなく、予算の積算の方法や、ホームページの作り方など、具体的に謳うことで敷居も下がり、頼りやすくなるのではないか。過去の事例や同じような事業を行った団体の紹介、協働のまちづくり助成金や共催・後援の案内ができると良いのではないか。
- ・押し付けでない奉仕活動、押し付けでないボランティアを目指し、本当に望まれている活動が何か考えることが重要である。相談内容を細かく区別することで市民ニーズの判断材料にもなる。どこの団体もよりよい活動にしたいという思いは同じである。うまくその考えを相談の中で引き出せる場になってほしい。
- ・町会は、会員の高齢化や活動のマンネリ化が課題である。スキルやマンパワ

一があまりない。やりたいことがあっても、どこに誰がいるのか、どこに何があるのか、何をどこまでやればいいのかわからないことがある。活動の発表の機会がもっとあれば活性化するのではないか。

- ・施設の利用予約について、5市1町ではまんまるよやくがあると思うが、同じようなものでボランティア情報版をつくれないうか。会場の確保や発表の場の紹介があると良い。
- ・つなぐための施策として、草加市は町会自治会が10ブロックに分かれており、そこに社会的資源も分けている。八潮も潮止、八條、八幡の3つの地域に分けたほうが動きやすいのではないか。
- ・楽習館全体の連携を深めていくとの話が事務局からあったが、具体的にどう進めていくのか検討が必要である。専門的知識を培うための予算や、機能の充実のための予算や、マッチングを行うコーディネーター確保の予算、コロナ禍での活動をリードしていく職員の活動費などが必要なのではないか。
- ・JR酒々井駅前の溜まり場KOKO（ココ）が、市民が集う活気のある場として好事例である。空き店舗を改装し、内装や備品は市民が持ち寄ったもの。店主のキャラクターが良いので人が集まるのではないか。今はなくなってしまったが、八潮のマイパートナーの活動も好事例だった。

【まとめ】本委員会はあと2回の開催となる。中長期的には、運營業務を民間又は社協に委託することも選択肢の一つと考えられるが、現状に即しながら、よりよい運営のため一歩ずつ歩みを進めるための施策の方向性をまとめていきたい。次回は、提言書の作成にあたり、ある程度の原案を示せるようにしていきたい。

4 その他

- ・次回以降の予定について

第3回 11月25日（水）午後2時から やしお生涯楽習館セミナー室1

第4回 2月頃

5 閉会